



University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.32 No.1 (No.121) Jan. 1999



愛され、親しまれる図書館を目指して

附属図書館長 石川 友紀

平成10年11月1日付けで附属図書館長に就任いたしました。就任して日は浅いのですが、行事や来館者も多く、研究・教育と合わせて一段と忙しくなり、気を引きしめて業務に励んでいるところです。

幸い、金城昭夫前館長の任期中に、附属図書館の充実と強化がはかられ、新事業として実現をみたものも少なからずありますので、今後は

引き続き、だれにでも利用しやすい、愛され、親しまれる図書館を目指して、図書館運営に努めていきたいと思えます。

その指針となるのが、平成10年3月に本図書館より発行されました『附属図書館の発展を目指して—現状と課題—』（自己点検評価報告書No.2）であります。本書には、本図書館の全般にわたる現状と課題が詳細に分析・考察されて

目次	
愛され、親しまれる図書館を目指して.....	1
図書館CD-ROMデータベース	
課金体系の変更についてのお知らせ.....	3
海外衛星放送受信システムの授業への利用...	4
CD-ROM情報検索システムの使用法(7)	
—CA on CD—.....	5
お知らせ.....	7
附属図書館内でサービスしているCD-ROM	
データベース一覧.....	8

目次	
図書館利用者用	
端末スペースが移動しました!.....	9
琉球大学附属図書館のあゆみ -5-	10
ライブラリー・ワークショップ・プログラム...	16
仲原善忠文庫貴重資料展.....	18
本学教官著作寄贈図書案内.....	19
沖縄関係資料新着案内.....	20
図書館事情.....	23
図書館映画会.....	24

附属図書館のホームページ (<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/>) もご覧下さい。

いますので、その提言に沿って、一步一步実現を期していくつもりです。

ここで、附属図書館の今後の主要な課題を整理しておきますと、つぎの3点が挙げられます。一つは開館時間の延長であります。現状は平日の開館時間は午前8時30分から午後10時まで(平成10年4月から1時間延長)、土・日曜日の開館時間は午後1時から午後5時までであります。このうち、土・日曜日の開館時間の延長と医学部分館の無人開館装置導入による24時までの開館の実施を目指しています。

二つ目は電子図書館的機能の充実・強化であります。これは時代の要請であり、高度情報化時代に対応するものです。そのため、本館に電子化を進める研究開発室が設置されました。また、データベースを蓄積・発信できる機器・ソフトの整備を進めています。

三つ目は沖縄関係資料の収集とデータベース化であります。前記の研究開発室が中心となり、平成10年度には文部省科学研究費補助金の研究成果公開促進費によるデータベース作成事業として「琉球語音声データベース」を申請しましたところ、幸い採用されました。今後3年間、同データベースの整備を計画しています。平成10年度は1,196万円の予算がつき、現在『今帰仁方言辞典』及び『沖縄語辞典』のデータ入力や音声切り出し作業などを進めています。

本館のいま一つの特色は、海外衛星放送受信システムが平成10年5月より稼働し、留学生等に喜ばれていることです。遠い異郷の地において勉学に励んでいる留学生にとって、母国のテレビがリアルタイムに見られることは何ものにもかえがたい心の安らぎを覚えることでしょう。海外衛星放送受信システムは、現在本館西側の6基のパラボラアンテナで受信し、3階の留学生交流コーナーに設置している6台のモニターに映し出され、世界30か国130余チャンネルの受信が可能となっています。

ここで、世界における交通網・通信網の発達を個人的体験で述べたいと思います。いまから20年前、昭和53年(1978)に、初めて文部省の科学研究費補助金により、沖縄県出身移民一世の海外学術調査で、南米4か国(ブラジル・アルゼンチン・ペルー・ボリビア)を、同僚の島

袋伸三法文学部教授と踏査しました。当時、日本円の価値は低く、アメリカ合衆国の経済圏にあった南米諸国の現地通貨は強く、支給された旅費では足りず、私費を持ち出したことを憶えています。その当時、南米を旅行する日本人観光客はほとんど見当たりませんでした。しかし、この20年間、なかでも最近の10年間では、交通・通信網の発達はすばらしく、人・物・金・情報などは一段とスピードアップし、短期間・瞬時のうちに地球を回るほどになりました。地理上絶対的距離はなんら変わることはありませんが、時間的距離は大層短くなりました。かつて沖縄県から南米諸国へ移民した一世の方々、船を利用して約30日から50日もかかり目的地へ到着しました。郷里を離れ遠い南米への船旅は、まさに地の果てに行くようであったと一世移民は述懐しています。いまや、南米へも航空機で約20時間から30時間で、気軽に行けるようになりました。

平成10年(1998)8月、日本移民と軌を一つにするブラジルとアルゼンチンの沖縄県出身移民90周年記念式典に参加する機会をえました。同年8月9日サンパウロ市での沖縄県人ブラジル移民90周年記念式典には400人以上、8月16日ブエノスアイレス市での沖縄県人アルゼンチン移民90周年記念式典には300人以上の関係者が県から参加し、現地の一・二・三世など1,000人以上もの沖縄県系人(ウチナーンチュ)と交流をし、式典をはさんでの祝賀諸行事は盛況を呈しました。わが琉大からも法文学部を主体に先生方や学生(エイサー隊)が各十数人、マッケンジー大学との学術交流をも兼ねて、ブラジルの同式典に参加しました。

このように、地球の反対側に位置する南米諸国の県系移民との交流がおこなわれたことは、かつては考えられなかったことであり、精神的近接感とともに、まさに地球は狭いことを実感することになりました。

沖縄県から一番遠いアルゼンチンは、これまで電話等の施設が古く、十分に通じない地域でありましたが、最近日本の技術も取り入れ、いまでは電話・FAXも良く届くようになりました。その結果、県の通信員も兼ねた一世移民は、インターネットにより、毎日、郷里の新聞記事

に目を通し、また、ブエノスアイレス市から情報を瞬時に発信できると、そのすばらしさを喜んでいました。

このように、通信面ではインターネットにより世界は一つになりつつあります。図書館もこれまでの図書館とは変わりつつあります。とくに利用者に対するサービス面では充実してきた

と言えるでしょう。本図書館の職員はそのほとんどが司書の資格をもつ専門職員であり、今後とも利用者の要望に応えるよう待機していますので、気軽に相談し、図書館を十分に利用・活用してほしいと思います。

(いしかわ ともりのり：法文学部教授 地理学)

★ 図書館CD-ROMデータベース ★

－ 課金体系の変更についてのお知らせ －

研究室等からネットワーク経由で附属図書館のCD-ROMデータベースを利用する場合の課金体系が、昨年9月22日に開催された附属図書館電子図書館機能検討委員会での決定により、以下のように変更されますのでお知らせします。

なお、変更の期日が来るまでは、従来通りデータベースへの接続時間に対して、20円/分で計算し課金されますのでご注意ください。

- SCI, SSCI, A&HCI, Current Contents, INSPECを利用すると・・・

平成11年1月以降は、研究室からお使いになられても課金されません。無料でお使いになれます。

- MEDLINE, Biological Abstracts, Biological Abstracts/RRM, PsycLIT, CA on CD, 雑誌記事索引を利用すると・・・

平成11年4月以降は、従来通り20円/分で課金しますが、課金の上限を20,000円/年度とします。20,000円を越えても、利用は可能です。つまり、20,000円利用した後は、年度内であればいくら使ってもそれ以上は課金対象とはなりません。ただし、今年度中（平成11年3月末日まで）の利用については、従来通りの課金体系で計算されます。
なお、医学部所属の方は、従来通り今後もMEDLINEの利用に限り課金されません。

- ABI/Inform, Global Books in Printについて・・・

平成11年1月以降から、この2つのCD-ROMデータベースは図書館内だけで利用が可能なサービス（スタンドアローン利用）への変更になります。従いまして、研究室からの利用はできなくなりますが、図書館内での利用については課金されませんので、無料でお使いになれます。

また、昨年12月に実施しました検索ソフトインストールの希望調査につきましては、申込書を提出された教官の先生方と個別に作業日程の調整等を行っておりますので、それに関するお問い合わせは、附属図書館電子情報係（内線：千原地区2207、8167）までご連絡ください。

海外衛星放送受信システムの授業への利用

法文学部 石崎 博志

図書館は、私が大学生生活を始めた10年前と比べても大きな変化をしている。ライブラリ・ワークショップで情報リテラシー(情報機器を駆使し必要な情報を管理・更新・活用する能力)の教育を実施したり、映画上演会を開催したり、海外衛星放送受信システムを導入するなどには以前は考えられなかったことである。そこで外国語学習(私の担当は中国語学)のために強くお勧めしたいのは、中央図書館3Fに設置されている海外衛星放送受信システムの活用である。

ここでは世界各国のテレビ番組が視聴でき、中国(及び香港)、台湾のテレビ番組も随時放映されている(受信局一覧は「びぶりお」第31巻第4号:H10/10/01を参照)。そして、すぐ側のパソコンは中国語圏のサイトも閲覧できるよう設定されており、インターネットでテレビ番組欄をチェックしてから目当ての番組を視聴できるようになっている。さらに、各テレビに設置されているビデオデッキで番組を録画することもできるのである。(但し、ビデオテープは持参のこと)

香港や台湾、中国のテレビ番組の殆どは「標準語」或いは「国語」(「北京語」)が使われ、普通のトーク番組やテレビドラマであっても中国語の字幕がふられている。中国語学習者にとっては、ノーマルスピードの自然言語の音声と字幕を同時に確認できるという大きな利点が備わっている。ここまで環境が整っていて、これを授業で使わない手はないと、早速香港で放映されているテレビ番組を録画した。番組の中には現地制作の番組のみならず、日本のドラマの字幕付き吹き替え版が放映されており、「玻璃仮面」(美内すずえ「ガラスの仮面」)「桜桃小丸子」(さくらももこ「ちびまる子ちゃん」)など日本でもお馴染みの番組が並ぶ。私の授業に出席している一年次の学生にそれらを見せたところ、

一様にそのスピードに驚きを示していたが、ドラマの内容にはすんなり入り込めたようである。

教材としての使用は中級以上の学生を対象にしたものになるであろう。以前メディアにおいて生の中国語に触れることができたのは、ラジオ・テレビ講座の大袈裟で遅い台詞、あるいは映画のみであり、各地のニュースやドラマは現地に行かなければ見ることはできなかった。やっとの思いで入手したテレビ番組の音声だけを録音したテープを何度も何度も繰り返し聞いて中国語の勉強したことを思い返すと、隔世の感がある。

大学教育における中国語は中級以降の上達がなかなか進まないと言われている(「さまよえる中級人」と呼ぶ)。学生が自ら積極的にこのシステムを活用することにより、その中級人の壁を打ち破って次のステップに進んで欲しいものである。近年、多チャンネル化の時代を迎え一般家庭でも衛星放送が受信できるようになった。しかし、管見の限り、その中に上記の番組を含むチャンネルは残念ながら用意されていない。沖縄では大型のアンテナを使っている図書館ならではのサービスと言えよう。加えて周囲には、図書や雑誌などの印刷物やコンピュータネットワークもあり、刺激的な情報空間となっている。と同時に中国人の友人が両親の住む湖南省の地方ニュースを視聴しているのを見ると、外国人学生にとっては一種の癒しの場としても機能していることを強く感じる。

国内外を問わず学生同士がそれらを十全に利用することにより、互いに知的な刺激を与え合う可能性を持った場となる。欲を言えば、情報リテラシー教育や設備のさらなる充実を期待したい。

(いしざき ひろし:中国語学)

CD-ROM情報検索システムの使用方法 (7)

— CA on CD —

本誌 Vol.31 no.3 (July 1998) でもご紹介しましたが、図書館では平成10年5月より CA on CD についてネットワークでの提供を開始しました。今回は、主に化学分野の情報を扱う CA on CD についてご紹介します。

I. 「CA on CD」とは

1. 収録内容

CA on CDは、化学を中心に幅広く科学技術分野の情報を収録している **Chemical Abstracts** のCD-ROM版です。毎年約 650,000 件の文献、及び約 123,000 件の特許に関する情報が収録されます。また、オリジナル情報は50以上の言語（日本語も含む）で書かれていますがそれらは全て英訳されて収録されています。

学内では1997年版以降をCD-ROMで利用できます。従ってそれ以前の情報検索については、従来の冊子体 **Chemical Abstracts** をご利用ください。（附属図書館の雑誌書庫内に揃えています。）

2. マニュアル等

CA on CDのユーザーマニュアルと **Index Guide Book** は、検索システムから入手することができますが、英文版に限られます。これは、CA on CDの出版元である **Chemical Abstracts Service (CAS)** から正式に出ているもので、最新のマニュアルです。**Index Guide Book**は、化学物質の慣用名とCAS登録番号とのリンクや、利用者が検索する言葉と **General Subjects**とのリンクをたどるのに便利な索引です。

このユーザーマニュアルと **Index Guide Book**は、Adobe社の **Acrobat Reader** というプログラムで閲覧、印刷が可能です。CA on CDの検索ソフトをパソコンにインストールする時に同時に **Acrobat Reader** をインストールできます。

II. 検索

1. 検索の基本

①CA on CDを起動後、最初に検索する年を選択します。複数年に渡って同時に検索を行うことはできませんので、同じ検索を複数年に渡り検索したければ、年を変えて行う必要があります。

②検索できる項目は、以下のとおりです。

- ・ **Word** (標題や抄録中の言葉・文献に付与されたキーワード・著者の所属機関の所在地等)
- ・ **CAS RN** (**Chemical Abstracts** への化学物質の登録番号)
- ・ **Author** (著者名)
- ・ **General Subjects** (一般事項索引の見出し語、**Chemical Abstracts** で採用している統制された索引語句のリスト)
- ・ **Patent No.** (特許発行国のコードと特許番号)
- ・ **Formula** (化学物質の分子式、Hill方式による表記なので注意)
Hill方式：炭素を含む有機化合物の場合はCを先頭に書き、もしあれば次にH、それ以外の元素はアルファベット順に並べられる。炭素を含まない物質の場合、全て元素記号はアルファベット順にならべて表記される方式。
- ・ **Compound** (化学物質名：一般名や慣用名と異なる場合があるので注意)
- ・ **CAN** (**Chemical Abstracts** への情報登録番号)
- ・ **Organization** (機関名や会社名など)
- ・ **Journal** (雑誌の略名)
- ・ **Language** (オリジナル情報の使用言語)

- ・ Year (オリジナル情報の発行年)
- ・ Document Type (情報の種類)
- ・ CA Section (Chemical Abstractsのセクション番号等)
- ・ Update (CA on CDの巻と号など)

③検索に関する機能は、以下の4通りあります。

- ・ Browse機能 (Browseアイコンを利用)
ある1つの検索項目を決めて、その項目についての索引を一覧します。
- ・ Search機能 (Searchアイコンを利用)
複数のキーワードなどを使って、論理演算 (and、or、notを使った組み合わせ検索) をする場合には、この機能を使います。
- ・ Substance Hierarchy
階層的に表示された化学物質名から情報を検索します。化学物質名から検索する場合は、この機能が便利です。ここでの化学物質名は一般名や慣用名と異なる場合がありますが、Index Guide BookによりCA 索引名を調べることが可能です。
- ・ Formula Hierarchy
Hill方式で表された化学物質の分子式を階層的に表示して、そこから情報を検索します。

2. 便利な機能

①Search機能を利用する場合、ワイルドカードを使って前方一致検索等が可能です。ワイルドカードは、以下の2種類あります。2種類とも、語の先頭には使用できません。

- ・ ? → 1文字文のマスクを示します。
例) base? → basesやbased が検索できます。
- ・ * → 任意数の文字 (文字数が0個の場合も含む) のマスクを示します。
例) adsor* → adsorbやadsorption 等が検索できます。

②Search機能では、キーワード等を入れるボックスが6つあります。1つのボックスに1つの語を入れるのが基本ですが、検索項目がWordの時だけは論理演算子orを使って複数のキーワードを入力することが可能です。これは、検索する言葉に同義語がいくつかある場合に利用すると便利です。

III. 検索結果の表示

検索結果の表示方法には、下記の2通りの方法があります。いずれの状態でも、特定の情報に印刷やダウンロードのためのマーク機能 (Markアイコンを利用します) があります。

1. 一覧表示

検索結果が複数ある場合は、最初に結果の一覧が表示されます。表示方法は、検索した言葉の出現した頻度 (画面左側の数字) 順に、情報のタイトルが表示されます。その中から1つ、もしくは複数の情報を選び (Shiftキーとマウスのクリックで連続した範囲指定、Ctrlキーとマウスのクリックで連続していない範囲指定ができます。) ダブルクリックすることで、詳細情報まで表示できます。

2. 詳細表示

①詳細表示では、情報のタイトルや著者名、出典情報 (掲載している雑誌名や巻号等) などの書誌情報だけでなく、抄録 (構造図があればそれも含む) や Chemical Abstracts に収録された時にその情報に対して付与された索引情報も表示されています。なお、ほとんどの情報には抄録が付与されていますが、表示がない情報もあります。その場合は、付与されている索引情報などからその内容を類推してください。

②詳細表示の下方には、その情報に関連する化学物質が挙げられています。表示はCAS登録番号が表記されていて、その部分をクリックすることによりその物質の名称 (CA索引名) と

分子式（Hill方式による表記）を確認することができます。その際、一般名や構造図は表示されません。

IV. 印刷とダウンロード

1. 方法と出力内容

印刷もダウンロードも、一覧表示の状態から最初にマーク機能を利用して範囲指定を行い、マークされた情報について Print アイコン（印刷）や Save アイコン（ダウンロード）を用いて印刷・ダウンロードを実行します。詳細表示の状態でも、同じく上記アイコンを用いて印刷やダウンロードを実行します。印刷もダウンロードも、文字情報は画面情報と同じような形で出力可能ですが、抄録中の構造図については印刷が可能ですが、ダウンロードはできません。

2. ダウンロードの効用

ダウンロードとは、検索で得られた結果をフロッピーディスクやパソコンのハードディスクに出力（保存）することを意味します。こうして得られた情報は、後で個人的にワードプロセッサで利用したり（論文作成時に引用したり、好みの形や文字の大きさに出力することが可能）、データベースアプリケーションを利用して個人の文献データベース中に情報として取り込むことも簡単にでき、便利です。また、印刷よりダウンロードの方が処理時間も短いので、とりあえず多くのデータをダウンロードしておき後でゆっくり選別するようにすれば、図書館などパソコンを共同で使う場所で利用するときには時間の節約になります。

V. Library Workshopの利用

以上の操作を行うことができれば、大体のことについて利用できるようなと思われるが、検索の考え方などのご質問があれば、毎月定期的に行っているLibrary Workshopの時間等を利用して質問をお寄せ下さい。

お知らせ

◎ 2月の試験期祝日開館について

平成11年2月11日(木)は建国記念日ですが、試験期のため開館します。
中央館・医学部分館 開館時間 13:00~17:00

◎ 長期貸出について（中央館・医学部分館）

長期貸出は平成11年2月5日(金)から開始します。
返却期限は平成11年4月13日(火)迄です。

◎ 春季休業期の開館時間について

平成11年2月19日(金)~平成11年3月31日(木)は春季休業で開館時間に変更があります。

- ・中央館の開館時間は 月曜日~金曜日 8:30~17:00
土曜日・日曜日 閉館
- ・医学部分館は通常どおり夜間開館を行います。
月曜日~金曜日 8:30~21:00
土曜日・日曜日 13:00~17:00

- ※ 中央館では当月、翌月の開館案内（カレンダー）を図書館入口及び掲示板に掲示しています。ご注意ください。
また、図書館ホームページの「図書館利用案内」にも案内しています。
- ※ 本館では当月、翌月の開館案内（カレンダー）を入口及び掲示板に掲示しています。ご注意ください。



附属図書館本館でサービスしているCD-ROMデータベース一覧

下記のCD-ROMがスタンド・アロンで本館内で利用できます。図書館では、データベース系のCD-ROMについては、利用者自身が、CD-ROMを出し入れしないで利用できる便利な機器を平成11年1月中旬に提供する予定で、準備を進めております。決まり次第、詳細については、図書館ホームページ等でご案内します。また、これまで、ネットワークでサービスしていた ABI-Inform selectとGlobal Books in Print は1月からスタンド・アロン方式での利用となります。

1. データベース系

(Windows対応版)

* は1月からWeb利用予定

W3.1 * CD-HIASK 93年版～97年版

W3.1 CD-HIASK: 戦後50年朝日新聞見出しデータベース

W95 日本経済新聞 1990～1997年版

W95・3.1 CD-毎日新聞 '93～'96

W95・3.1 CD-毎日新聞 '91～'95総合索引

W95・3.1 判例全文 CD-ROM

W95 ABI-Inform select

W3.1 German Books in Print = 'VLB aktuell' Verzeichnis Lieferbarer Bücher auf CD-ROM

W3.1 J-BISC : Japan MARC on disc 1969～1995/国立国会図書館

W3.1 J-BISC: 国立国会図書館蔵書目録。明治期/国立国会図書館編

W95 政府刊行物等総合目録 1998年版

W95・3.1 学術雑誌総合目録 1996

W3.1 科学技術文献速報: 機械工学編

W3.1 科学技術文献速報: 金属工学・鉱山工学・地球科学編

W3.1 科学技術文献速報: 電気工学編

W3.1 科学技術文献速報: 物理・応用物理編

W3.1 科学技術文献速報: エネルギー編

W3.1 130万語大辞典, インタープレス版

W95・3.1 広辞苑/新村出編 第4版

W3.1 Encyclopedia Americana: 1995年版 全30巻

W95 世界大百科事典, プロフェッショナル版 (+世界地図、百科年鑑)

W3.1 理科年表 CD-ROM/文部省国立天文台編 1997年版

W95 労働白書 平成10年版

W95・3.1 日本経済事典

W95・3.1 日本統計年鑑 平成8年版

W95 測候時報/気象庁: 昭和編 第1～55巻 (昭和5年～63年)

W3.1 Dictionary of National Biography

W3.1 Geography: Elsevier/Geo Abstracts Database 1990-1997

W3.1 Historische Bibliographie 1990～1995

W3.1 SCI Journal citation reports

W3.1 JIS 総目録 1997年版

W3.1 デジタル図鑑 沖縄の野鳥

W95 台湾時報 大正8年～昭和20年

W95 文部省選定教材映画等目録 (昭和29年～平成7年)

W95・3.1 ゼンリン電子地図: 日本地図全国版1996

W95・3.1 マルチメディア図鑑シリーズマルチメディア沖縄亜熱帯図鑑/湊和雄著

W95・3.1 マルチメディア図鑑シリーズマルチメディア昆虫図鑑/海野和男著

W95・3.1 マルチメディア図鑑シリーズマルチメディア天体観察/アストロアーツ著

W95・3.1 マルチメディア図鑑シリーズマルチメディア野鳥観察/水谷高英 [絵]

W95・3.1 デジタル歌舞伎エンサイクロペディア/松井今朝子編著

(NEC MS-DOS専用)

** はCD-ROMドライブ機種限定

N98 CD-BOOK '86～'92

N98 ** CD-HIASK '85～'91 総合索引版

N98 ** CD-HIASK 85年版～92年版

N98	CD-MAGAZINE '81～'92		ツ株式会社
N98	** CD-WORD	EB	中国人名事典：よみ方付き／日外アソシエーツ
N98	CD-新現代日本執筆者大事典		
N98	CD-毎日新聞 '92	EB	朝日新聞：一面記事 1989～1993／朝日新聞社
N98	Oxford English Dictionary		
N98	Shakespeare on Disc	EB	朝日新聞：天声人語・社説 1985～1991／朝日新聞社
N98	岩波電子日本総合年表		
N98	** 現代用語の基礎知識 1989	EB	歴史人名よみ方書き方辞典／日外アソシエーツ株式会社
N98	広辞苑		
N98	世界大百科事典	EB	日本語大辞典／講談社
N98	模範六法		

2. 電子ブック

EB	20万語よみ方書き方辞典／日外アソシエーツ株式会社
EB	30万人よみ方書き方辞典／日外アソシエーツ株式会社
EB	8万人西洋人名よみ方綴り方辞典／日外アソシエーツ株式会社
EB	データベース昭和史／岩波書店
EB	ブリタニカ国際大百科事典：現代用語収録
EB	環境問題記事 '90～'93／毎日新聞社
EB	岩波仏教辞典／中村元〔ほか〕編
EB	教育問題記事 '90～'93／毎日新聞社
EB	芸能・タレント人名事典 1.2万人／日外アソシエーツ株式会社
EB	新漢英字典／日外アソシエーツ
EB	新訂現代日本人名録（1～5）／日外アソシエーツ株式会社
EB	西洋文芸人名録／日外アソシエーツ

3. 電子出版物（貸出利用）

Mac	1170546 report: 阪神大震災記録／大成建設株式会社土木設計計画部制作
W3.1	NHKできごと／日本放送協会
W3.1	The animals !: サンディエゴ動物園の世界
W3.1&Mac	むる沖縄=Muru Okinawa; Muru Okinawa, Vol. 1～2
W3.1	キネマ旬報シネマデータベース：アメリカ編
W3.1&Mac	ハイパー京都ガイド
W3.1&Mac	マジカル Kyoto
W3.1	マニュアルでは学べない新・パソコン基礎講座
W3.1&Mac	南の風: South wind arriving
W3.1	日経パソコン新語辞典 95年版
W3.1&Mac	竜宮の扉: オキナワンフュージョンで旅する沖縄美海フォトストーリー; stage 1
W95	沖縄の昆虫ワールド

図書館利用者用端末スペースが移動しました!

12月21日より、本館2階サービス・カウンター向かいの情報検索コーナーの機器が、隣の「情報検索室 (Information Retrieval Room)」(仮称)に移動しました。昨年12月25日より利用可能となっています。

また、総合情報処理センターの機器の入れ替えに伴い、本館3階メディア・プラザ内の機器を2階の旧情報検索コーナー(総合情報処理センター・オープン・サテライト)に移動しました。1月6日より利用可能の予定です。

琉球大学附属図書館のあゆみ —シリーズ⑤—

豊平朝美

1980年代

本学も創立以来30年が経過し、大学の規模は年々増大していった。首里キャンパスは基準面積にも満たず著しく狭隘であった。昭和40年5月27日に学長の諮問機関として設置された「施設整備拡充研究委員会」は、新校地の必要面積を130万㎡～140万㎡とし(実際の用地取得面積は上原団地を除いて約113万㎡)、候補地として、最終的には宜野湾市、西原村、中城村の接地点が最適地として、同年11月4日に学長に答申した。

その後、幾多の経過を経て、昭和50年10月に文部省で開催された琉球大学移転整備計画協議会において「千原団地の施設配置計画は概ね大学案どおりとする」ことが決定された。昭和50年5月、首里キャンパスより現千原キャンパス移転の第1陣として農学部附属農場が移転し、その後、各部局が次々と移転した(「琉球大学40年誌」参照)。

移転を直前に控え、その準備最中の昭和56年に、琉球大学が当番館になり、第28回国立大学図書館協議会総会が首里の都ホテルで6月23日、24日の2日間にわたり開催された。昭和56年7月13日より新館への移転が進められ、9月より開館した。翌年の昭和57年10月より、閲覧業務が電算化された。首里キャンパスのマニュアル貸出に終わりを告げ、利用者への新たなサービスの幕開けとなった。

その後、昭和59年3月には上原団地に医学部分館も竣工、5月に開館したが、閲覧業務の電算化は少し遅れて、昭和62年10月よりサービスを開始した。

事務組織においては、昭和60年4月より、図書館に部課長制が敷かれ、組織の強化とサービス体制の改善・整備が一段と進められた。それと共に業務の省力化、合理化に向けて見直しを図り、今日に至っている。

初代事務部長に九大から前田正三氏、整理課長に尾崎一雄氏が阪大から着任、閲覧課長に当

館の山田勉氏が昇任し、業務の電算化を推進することになった。又、昭和60年9月に閲覧課に図書館専門員が認められ、医学部分館に配置された。昭和61年1月より東京大学文献情報センター(現学術情報センター)と接続、これまでのカード目録作成に終止符が打たれ、目録業務の省力化が飛躍的に進み、本学図書館の電算化時代の幕開けとなった。

◎第28回国立大学図書館協議会総会

昭和56年6月23日～24日

昭和56年(1981)に図書館の西原キャンパスへの移転を目前に控え、九州地区が当番地区になり、琉球大学(当時首里キャンパス)が当番館として、全国規模の会議が初めて開催された。会場は首里の都ホテルで全国92国立大学から、図書館長及び事務部部長計220名、文部省から田保橋課長他2名が出席した。

琉球大学が国立大学図書館協議会に参加するようになったのは、昭和32年(1957年)に、「全国国立大学図書館長会議」(事務局は東京大学附属図書館)に当館の外間政章館長(当時)が加入申請したことに始まる。米国施政権下の特殊事情があり、かつ創立間もない本学にとって、日本の国立大学の動向を知ることは図書館の改善・発展のために不可欠だったのである。実際の参加は昭和34年(1959)10月27日の一橋大学で開催された第6回全国国立大学図書館長会議にオブザーバーとして出席したことが始まりである。

総会の準備にあたって、東京大学、九州大学等の支援を頂き、琉球大学でも平良事務長の指揮のもとに、館員が準備にとりかかった。東北大学(前回の開催校)で事務引き継ぎを行った崎浜受入係長を中心に綿密な準備計画を立てられ、総務係が加わり、準備が進められた。その他の大会の準備として開催直前の1ヶ月前から、新城安善整理係長を中心に松原、山里両整理係員の協力で都ホテルの会場に掲げる横断幕の作

成が進められた。

大会当日の総会は議事も円滑に進められた。総会終了後、夜は懇親会が行われ、氷でかたどった守礼の門の豪華な飾り付けは参加者の目を引いた。2日目には、分科会が行われ、学術情報センター設置の促進、図書館維持費の増額、相互協力業務担当職員の増員等、国立大学図書館が抱える問題を討議し、午後の全体会議で午前中の分科会の報告があった。

この時の総会で「国立大学図書館間相互利用実施要項及び細則」が採択され、現在、国立大学間で他大学への閲覧の際に利用されている「共通閲覧証」（原則として院生以上が対象）による図書館間相互利用制度が昭和57年1月15日から実施された。（「びぶりお」14巻3号参照）

一方、「琉球大学附属図書館30周年略年表」の作成が崎浜受入係長を中心に進められ、総会の当日に各大学の出席者に配布された。略年表には首里城跡に琉球大学の創設が決定される1948年（昭和23）から西原町の千原キャンパス移転直前の1981年（昭和56）4月1日までの30年間の図書館の足跡が年月日順に記載されている。略年表の作成は1980年（昭和55）が30周年（1950年5月5日の開館）にあたることから、図書



横断幕の作成風景



会場の都ホテル玄関風景

館の歩みを出来るだけ詳細に記録し、他日の参考に資するため企画されたようである。略年表は過去の図書館事情が一覧でき、現在では非常に貴重な資料となっている。



附属図書館30周年略年表

◎移転統合地における附属図書館の在り方について

附属図書館運営委員会の意向を踏まえ、当面次の事項に沿って改善が行われるよう大学改革委員会より提言、最終答申をまとめ、昭和54年2月16日付で学長へ報告した。その基本方針について、「中央図書館制度とし、図書・雑誌を図書館長のもとに一元的に管理運営し、全学共同利用を図り、他大学図書館との相互協力が効率的かつ経済的に行われることが望ましいこととした。本学規模の図書館では、将来における分館レベルの分散保存は別として、分室等の形式による図書館資料の分散化は原則として認めない方向にすべきであるとし、医学部分館については、将来においても学生数、蔵書数の増加、敷地規模から最小限の設置にとどめるべきである。」となっている。

しかし、移転後間もなく、農学、工学部より新図書館に分室を設置するよう要望が出された。昭和54年4月の農学部の新キャンパス移転を皮切りに、昭和56年に図書館が移転するまで、暫定的に新キャンパスの学部内に図書室を設置したのが要因と云われ、暫定期間が過ぎて、学部図書室を引き上げる段階になると、距離的に離れた図書館では利用に不便ということで要望が出されたい。新図書館の基本方針はその役割として、研究図書館、学習図書館、学術情報センター、地域図書館、教養図書館及び保存図書館等の機能が十分行なえる必要があるとなっている。その他に、「中央図書館は、学内にお

ける図書館資料の収集センターとして、情報を提供し、所蔵しない資料についても文献複写を通じて利用者へサービスできる場ではなくてはならない」とし、「そのためには中央図書館における情報収集の管理運営について、電子計算機の導入等、資料の管理運営にも機械化が予想されるので、施設設計上の工夫および将来の面積増をみこした周辺敷地の確保等についても配慮が必要であろう。」となっている。

さらに、平良恵仁氏（当時事務長）は、沖縄研究資料センター的機能、視聴覚資料センター的機能、総合図書館的機能を新図書館に期待される役割として位置づけている。（参照文献：平良恵仁氏、崎浜文枝氏執筆論文：「大学図書館研究」20号所収、仲西盛秀氏執筆論文：「大学図書館研究」28号、「図書館年報」昭和53年度）

◎附属図書館の移転

昭和56年度「図書館年報」によると大学の移転に伴い、附属図書館は昭和55年11月以来急ピッチで西原町千原キャンパスに建設が進められ、昭和56年6月末日に完成した。移転の準備は平良事務長の指揮のもとに、全館体制で進められ、崎浜受入係長を中心に周到な計画が立てられた。移転の実施に当って、新井裕丈氏（当時閲覧係長）を中心に作業計画が進められ、新館での開架行きと書庫行きの図書の仕事を行ない、箱詰めをした。昭和56年3月2日から臨時用務員が採用され、箱詰めしたダンボールのテープ貼りを行い、その後、職員も3月12日から20日まで書庫整理を行った。移転作業は7月14日から始まり、運送業者と全職員が搬出班と搬入班の二手に別れて資料及び備品等の搬出・搬入・配架を行ない、8月8日に作業が完了した。新図書館での開館は昭和56年9月1日開始となった。総面積は5,440㎡で首里の旧館の約2倍強になっている。旧館と違うところは、1階に語学実験室、視聴覚室、研究個室、書庫に電動式集密書架等が設置されたことである。さらに身体障害者の為に、図書館通用門に通じるスロープ道路を図書館外側に初めて設置した。翌年の昭和57年4月より、2階玄関入口にB.D.S.（ブックディテクションシステム：無断図書持出防止装置）

が導入され、職員、利用者双方共にこれまで長期にわたり実施してきた持物点検による心理的負担から解放された（1964年2月20日に完全開架式を実施、以来退館者の所持品点検を行っていた。）。3階にブラウジングコーナーを設けて、利用者が自由に懇談、休憩が取れるようになった。又、空調設備、エレベータも設置された。首里キャンパス時代に図書館職員全員で1階から5階まで汗だくになって資料を上げたりしていたことが今では昔のここのように思われる。

◎閲覧業務の電算化

昭和57年10月より、本館において閲覧業務が電算化された。約8万冊に図書ID番号を付与、学生証、職員証に利用者IDを貼付、10月24日より電算化（10月22日稼働式典）による貸出を開始した。

コンピューター研究委員会（委員長：宮島恵曠氏）のもとで、開架図書の書誌情報の入力、IDラベル貼付作業（業者、図書館）が実施された。新井係長は、稼働には本学の計算センター講師（当時）の鶴岡知昭氏に負うところが大きいと述べている。（附属図書館33年の思い出：「びぶりお」26巻3号通巻100号所収）

◎図書館玄関表札の制作

昭和56年9月1日に、新図書館は西原町の千原キャンパスで開館したが、図書館を象徴する表札は安次富長昭先生によって作成された。館長（木崎甲子郎理学部教授）より玄関表札の制作依頼を受けた安次富先生は、「学而不厭」を表札の標題として、館長に上申した。図書館の「学而不厭」（がくじふえん）は、昭和38年（1963）1月に、京都大学教授の湯川秀樹博士が、本学に来学された折に揮毫したもので、その原本は巻軸にして現在図書館の金庫に保管されている。

「学而不厭」は「論語」の一節より引用したもので、「学び、学び、そして学ぶ。決してあきらむということはない」という意味で、安次富先生はこれを図書館にふさわしい言葉として表札に選んだそうである。安次富先生のお話では湯川秀樹博士の扁額の文字は表札用に拡大、文字と文字の間を調整しながらレイアウトした。

石材は県内最上品の石である久米島仲里村島尻の輝石安山岩を使用し、コザ市（現在の沖縄市）にある沖縄大理石社長石嶺実彦氏によって研磨・彫刻された。石嶺実彦氏は手掘りの名人で琉大西口にある琉球大学の表札、医学部の献体碑、沖縄県庁の表札などの彫刻も手掛けた人である。安次富先生は琉大で使用する表札のため、石材をあらかじめ、久米島より持ち出して準備をしていたそうである。制作された碑文の除幕式は、昭和57年9月2日に執り行なわれた。（詳細は安次富長昭氏の「学而不厭」：「びぶりお」15巻5号所収及び砂川恵伸氏の扁額「学而不厭のこと」：同26巻3号所収参照）

その他、安次富先生（当時の学科主任）は美術を担当した退官教官に呼びかけて作品（絵画）を本館に寄贈して頂いたほか、教育学部美術工芸科の現役教官の作品を図書館に寄託させて頂いた。寄贈された退官教官は安次嶺金正、安谷屋正義、大城皓也、宮城健盛、山元恵一の各氏で、又、図書館に絵画を寄託された現役美術教官は安次富長昭氏の他、稲嶺成祚、大城志津子、神山泰治、西村貞雄、永津禎三の各氏である。作品は一部を除いて現在でも本館の閲覧室、玄関ホールに展示されており、館内の雰囲気造りに役立っている。尚、新館の正面玄関ホールの壁のレリーフは玉那覇正吉教官と西村貞雄教官が共同で制作したものである。（「びぶりお」15巻5号及び17巻1号、「図書館年報」昭和57年度及び昭和58年度参照）



「学而不厭」を揮毫する湯川秀樹博士（「琉球大学40年誌」より）

注、湯川博士は沖縄教職員会主催の「第九次教研集会」の記念講演の特別講師としてスミ夫人とともに来島され、昭和38年（1963）1月18日に本県学生のために琉球大学体育館で午後2

時から講演を行った。県内の琉大、沖大、国際大、キリスト教短大の4大学の学生、職員の外に講演の始まる頃には近くの首里高校生も押しかけ、広い体育館も3,500余人の聴衆で一杯になり、湯川夫妻の講演は聴衆に大きな感銘を与えた。

湯川博士は「最近の物理学」のテーマで話され、真理の追及は人間に役立つものでなければならぬのであり、学問を間違った方向に伸ばしてはならないということや、若い研究者には夢をもって欲しいこと等を述べられた。スミ夫人は「現代における私どものつとめ」と題し、世界の婦人が手を取り合って、核戦争から人類を救うことの大切さを述べられた。

翌19日も同体育館で午後2時から教研集会の記念講演を行い、湯川博士が「科学文明の中の人間」と題し、スミ夫人は「婦人と世界平和」と題して講演、4千人の教職員、一般市民、学生に深い感銘を与えた。（1963年1月19日、20日「沖縄タイムス」、「琉球新報」掲載記事を参照）

◎「志喜屋記念図書館」の呼称と銘板設置

昭和60年4月16日開催の「移転完了記念祝賀行事企画委員会」で、附属図書館の呼称について、首里キャンパス時代からの歴史的連続性を示すために、旧キャンパス同様初代学長、志喜屋孝信博士の功績を讃え「志喜屋記念図書館」と呼称することが答申され、昭和60年9月24日の「評議会」で了承された。それにより、銘板の製作に伴う指導・助言を同年10月25日に安次富長昭教授（教育学部）に依頼、銘板は昭和61年3月15日に正面入口に取り付けられた。（「図書館概要」1986参照）

◎藤林益三元最高裁判所長官の来学と図書館の扁額「真理令爾得自由」

昭和55年の7月5日に、元最高裁判所長官で、退官後日本法律家協会会長の職にあった藤林益三氏が、日本法律協会の九州支部の沖縄分会の招きで、沖縄での講演のため初めて来沖した。「日本法律家協会」は財団法人で裁判官、検察官、それから弁護士、公証人、学者等で組織されており、その構成員を対象に、藤林氏は「裁

判官と良心」という演題で沖縄の那覇地方裁判所の会議室で1時間ばかり講演された。その講演を聴講した。本学の教養部（法学）の垣花豊順教授は、「裁判官と良心」の講演で裁判官のものの考え方によって人の一生が左右されることを知った。大学の教官の講義によって学生の一生が左右されることがありうるため、垣花教授は、進路に誤りのない講義を学生にしたいと念じて、藤林氏に琉球大学の進むべき道・守るべき基本的姿勢についてご教示して下さいよう記念講演をお願いしたそうである。藤林氏には本学の創立30周年と新キャンパス移転記念ということで、そのついでに一週間程度の集中講義をお願いしたようである。藤林氏は翌年の昭和56年に再び来沖し、5月11日から16日までの6日間、教養部の学生を対象に本学で講義された。この教養部での16時間に及ぶ集中講義は全部録音されて、学生有志18人が手分けして、文章化しその後、垣花教授が藤林氏へ送付された。藤林氏はこれに手を加えられ、送り返したところ、垣花教授はご自分で全部清書し、これを書物にして欲しいとあって、再び藤林氏のもとに届けた。「藤林益三著作集3：法律家の知恵」はこれをまとめたものである。

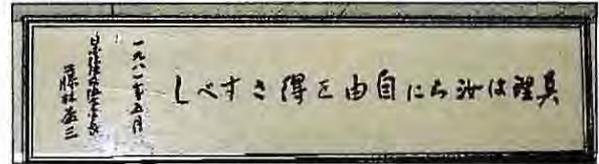
集中講義期間中に、藤林氏は垣花教授に色紙等を求められ、思いつくままに「真理は汝らに自由を得さすべし」という聖句を書いた。帰郷後、藤林氏のもとに垣花教授はこの句を横額に書いてもらいたいと半切の他に2メートル余りの大きな紙が届けられた。半切りは会議室に、大きなものは図書館に掲げるということであったそうである。藤林氏は仮名入りの14文字は、横書きには無理と思っていたところ、不思議なことに、その頃、関西に住む友人から、神戸女学院大学の会議室に、「真理令爾得自由」という巖谷一六の書があることを知らせてきた。一六は明治の書家で藤林氏の岳父「巖谷小波」の父で、クリスチャンではなかったので多分(人に)たのまれてこのヨハネ八の三二の聖句を漢語で書いたものであろうと藤林氏は「同書（法律家の知恵）」で述べている。

漢字7文字の「真理令爾得自由」は、本館カウンターの上部に掲示されている。14文字の「真理は汝らに自由を得さすべし」は事務局教

務課の管理下にある共通教育1号館（元教養学部）教室の入口内に現在掲げられている。



図書館カウンター



共通教育1号館

◎医学部分館の新設

医学部分館が本学医学部にも設置されることになり、設置計画が検討された。

昭和56年4月建設設備専門委員会（委員長：小張一峰）が設けられ、昭和58年8月、同第4回委員会において、分館は蔵書数8万冊、建物面積は1,400㎡で2階建とすることが決められた。

昭和56年、琉球大学医学部基本設計計画において、分館は開架式閲覧を基本とし、臨床講堂及び保健学科棟と隣接する建物とすることが示された。昭和57年10月、建設設備委員会（第13回）で、分館建設の実設計のためのワーキング・グループ（委員長・金城清勝：後の初代医学部分館長）が設置された。建設設備委員会（第14回）は、分館の基本構想を蔵書は10万冊を目標とし、これを超えた場合は増築する。将来構想の中に熱帯医学情報センターも志向する等となっていた。昭和58年9月に着工、翌年の昭和59年3月に、鉄筋コンクリート2階建て（1,404㎡）、収容冊数7万6,000冊の医学部分館が竣工した。建物新営に伴う設備品についての計画は仲西盛秀氏によって作成された。

◎医学部分館の移転

昭和58年4月、医学部の基礎医学講座及び保健学科が新キャンパスへ先に移転することになり、新キャンパス基礎講義棟の1室に暫定図書室を設け、図書、新刊雑誌の一部を移し、講義に備えた。臨床講座関係の図書・雑誌は、昭和59年4月、附属病院の移転まで与儀キャンパス

の図書室で利用された。昭和59年5月に医学部分館は開館された。その間、講義棟の教室の一部に図書室を設けていたため、資料等の配置、開館時間の制限等不便をきたしていたが、分館が新築されて、漸く利用者へのサービス機能を図ることができるようになった。

移転準備は仲西盛秀氏（分館整理係長）、野原敏弘氏（分館閲覧係長）を中心に進められ、同年6月、与儀キャンパス図書室から図書、備品の移転作業が行なわれ、7月に完了した。その後、移転図書の配架作業が行なわれ、9月の授業開始までに書架整頓を終了した。

新館の主要設備としては、全館空調設備、集密書庫、エレベーター、B.D.S.（図書無断持出防止装置）の他に、特に視聴覚機器など編集機能を備えたビデオ機器等が整備された。（「琉球大学40年誌」参照）

◎医学部分館のレリーフ

分館の2階へ上がる階段正面の壁に作品名が「白い波」という巨大なレリーフがあり美しい静かな雰囲気をかもし出している。

分館設置の際に制作したもので壁画造形作家の西田明未（本名：松葉明美）の作品である。作者は欧州各国で造形美術を研究、帰国後、創作活動を次々と続け、「積み重ねの分化」の作品では、わが国壁画造形美術部門としては初めて総理大臣賞を受賞した。作者の西田明未の「白い波」の趣意によれば、「（この絵は）コバルト色の空にエメラルドグリーンの海が輝く、カラッと晴れわたった沖縄の海岸に打ち寄せるさわやかな白波の光を南国の詩情豊に美しくデザイン造形しており、それは朝昼夕を問わず安らぎと深いロマンを人の心に感じさせる情景であり、透明感に満ちた太陽の輝きや白い砂、そ



医学部分館のレリーフ

して海の音が聞こえて来るが如くに造形しています。材料は美しいイタリアングラスの外、特殊鉱物材を主材に、要所には貴金を使用、効果的に造形制作しています。」となっている。

◎絵画の寄贈とヒポクラテスの絵画

医学部分館では卒業記念に、医学科第4期生から郷土出身の画家名渡山愛擴作「鳳凰戯牡丹」、第11期生からみやら信之作の「座る女」を、また、平山清武教授（当時の医学部長）から絵画が当館へ寄贈された（医学部長室に掲示してあったもので、第9期生が寄贈した高橋益之作の「婦人像」という絵画）。本館同様館内の雰囲気づくりに一役かっている。

「ヒポクラテス」の絵画は、大鶴正満教授（初代医学部長で現在名誉教授）が前任の新潟大学時代に所蔵されていたものであり、「Great Moments in Medicine」という洋図書と併せて、医学部分館に寄贈されたものである。図書は45篇の内容から構成されており、各篇に Robert A. Thomの絵画と George A. Benderの説明文がある。その中に「ヒポクラテス」の絵画の説明文もある。

絵画の説明文（英文）は「ヒポクラテス：医学が科学となる」という見出しで始まって、その見出しの内容は「紀元前500年から紀元後500年の1000年の間に、古代世界で医術はギリシャで最も高度に達した。この創造期はヒポクラテスに「医学の父」として象徴されているように、常にその名前は美、価値、医学の尊厳を表わすようになった。ヒポクラテスのやさしさと気遣いは「人間愛の存在するところに愛のある癒しの術がある」という名言に表現されている。紀元前5世紀後半に、ヒポクラテスが若い患者に触診して、心配している母親をしばしばなだめているように、この偉大な医者であり、科学者であり、教師である顔にこの本質が写し出されている。ヒポクラテスは今日でも医学界ではなお尊敬されている」となっている。

さらに本文に「ヒポクラテス」は紀元前460年頃、エーゲ海の「コス」という小さい島で、神官医師の家に生まれ、ラリッサで紀元前375年頃死去したと云われている。同時代にソクラテス等がおり、「ヒポクラテス」の手で医学が

技術、科学、職業になったと記されている。ヒポクラテスについては医者倫理について、多くの名言があり、又、「ヒポクラテスの誓い」は医師の倫理として重要なことを述べており、今日でも通用するものがあると云われている。患者の医療上の秘密を守ることや、患者の私生活に医師という特権を利用して立ち入ることを戒めており、医術は、〈患者の福祉のため〉であり、〈あらゆる故意の不正と加害を避ける〉というところに「ヒポクラテスの誓い」の本質



Robert A. Thom
(ヒポクラテスによる患者の診察)

がある。「医科学大事典」参照)。大鶴教授はそういう意味もあって、この絵を寄贈されたようである。「ヒポクラテス」の絵画はまさに医学図書館にふさわしいものと云えよう。この絵を寄贈された大鶴正満氏は、琉球大学医学部創設準備室長として、本学の医学部創設に深く関わった方である。

つづく

(とよひら ともみ：図書館専門員)



名渡山愛擴作「鳳凰戯牡丹」
(医学科第4期卒業生寄贈)

ライブラリー・ワークショップ・プログラム

(図書館 定期開催版)

開催日程などの最新情報は

ホームページ<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/>で再確認!

<<参加申込み>> 附属図書館電子情報係(図書館本館3階 内線:千原2207、8167)

資料や端末の用意があるため、必ず参加申し込みを行ってください。

図書館では、様々な資料を使って情報を収集する方法について以下のようなワークショップを行っています。

★ 図書館ツアー

場所: 附属図書館本館(千原)2階 参考調査係カウンター前に集合

内容: いつも同じ書架の前で資料を探しているあなた、資料収集は取りこぼしなく、十分に行えてますか?このツアーでは、附属図書館本館(本館)を利用するにあたり利用者自身で館内のさまざまな資料に効率よくアクセスできるよう、所蔵資料(コレクション)とその配置等の説明をしながら、館内全体をご案内します。

★ 図書館利用法

場所: 附属図書館本館(千原)2階 参考調査係カウンター前に集合

内容：図書館のレファレンスコレクション（参考資料群）を利用すると、古い文献を検索したり、検索テーマの周辺領域を拾い読みすることができます。これは印刷された資料ならではの技です。この時間は、レファレンスコレクションの使い方、更に他の図書館の資料を利用する方法や手順についてお教えします。

★ レポート・論文作成のための電子メディア活用講座

時間：毎回 15：00～16：00

（参加する方は、なるべくDOS形式で初期化済みのフロッピーディスク1枚をご用意願います。）

場所：附属図書館本館（千原）2階 情報検索コーナー
医学部分館 1階 情報検索コーナー

内容：電子メディアを利用して、資料の所在や文献の情報を効率よく入手する方法をお教えします。何度でも受講可能です。

1. 琉大図書館蔵書検索システムOPACの使い方
2. 全国規模で資料の所在情報を検索するシステムWebcatの使い方
3. 文献（論文）情報検索のための：CD-ROMデータベース利用法（下記参照）

=CD-ROMデータベース=

芸術・人文・社会系

- Arts & Humanities Science Citation Index
- Social Sciences Citation Index

学際領域、及び複数分野

- PsycLIT(心理学)
- 雑誌記事索引（主に日本語文献、全分野）
- Current Contents (on Diskette)
（社会・自然・医学・技術系）

自然・医学・技術系

- Science Citation Index
- MEDLINE（医学関連）
- Biological Abstracts
- Biological Abstracts/RRM
- 医学中央雑誌
- CA on CD (Chemical Abstracts)
- INSPEC（物理・工学系）

★ 図書館電子メディア利用のための基礎講座

時間：15：00～16：00（参加者はなるべくDOS/V用等のフロッピーディスク1枚をご用意願います。）

場所：附属図書館本館（千原）2階 情報検索コーナー

内容：この講座は、コンピュータを利用した経験がほとんどない方を対象に開講しています。図書館資料として電子メディアを利用する際、基本的なコンピュータ操作ができるようになることを目標にしています。

1. 図書館ホームページの紹介
2. 琉大図書館蔵書検索システム OPAC 入門
3. 情報の保存方法（フロッピーディスクの活用について）

◆授業でもご活用ください◆

授業やゼミの中でこのワークショップを取り入れていただくことも可能です。授業の目的に応じた内容で提供いたします。また開催時間もご都合に応じて調整可能です。Library Workshop 参加申込み先の係までお気軽にご相談ください。

仲原善忠文庫貴重資料展

— 沖縄の歴史とおもろ —

講演会「仲原善忠の沖縄研究」も同時開催

平成10年11月2日(月)から11月13日(金)まで、附属図書館1階多目的ホールにおいて、当館所蔵の「仲原善忠文庫」の貴重資料展を開催しました。

仲原善忠氏は明治23年沖縄県島尻郡久米島仲里村に生まれ、「沖縄学の父」といわれる伊波普猷氏と並んで沖縄の古歌謡である「おもろ」の研究で知られています。また、戦後の昭和27年(1952)に沖縄における中学校用教科書『琉球の歴史』を著述したことで知られています。

「仲原善忠文庫」は、故仲原善忠氏の遺志に従い、信夫人より「沖縄の学徒、研究者に役立てたい」というご厚意で昭和41年に本学へ譲渡されました。蔵書の冊数は2,300冊余で、一般図書その他、沖縄関係資料が500冊近くあり、その内容は多岐にわたっております。今回はその中の沖縄関係資料から「おもろさうし」等古文書の貴重な資料18点を展示しました。

また仲原善忠文庫の展示と併せて、琉球王府時代に代々八重山の頭職を勤めた宮良家の古文書類、大正期の沖縄の風俗写真、本学風樹館所蔵の沖縄の動植物等も、電子情報で公開しました。見学者の中には遠く仲原善忠氏の故郷久米島仲里村からも来館されており、教職員、学生、会社員等一般市民多数の参加がありました。また同展にあわせて、11月7日(土)午後2時より3時30分まで「仲原善忠の沖縄研究」という演題で本学の池宮正治法文学部教授による講演会を開催し、参加者に深い感銘を与えました。

今回の展示会につきましては、解説にあたって、本学の池宮正治、金城正篤、高良倉吉、阿波根直誠氏の各教官に協力して頂きました。

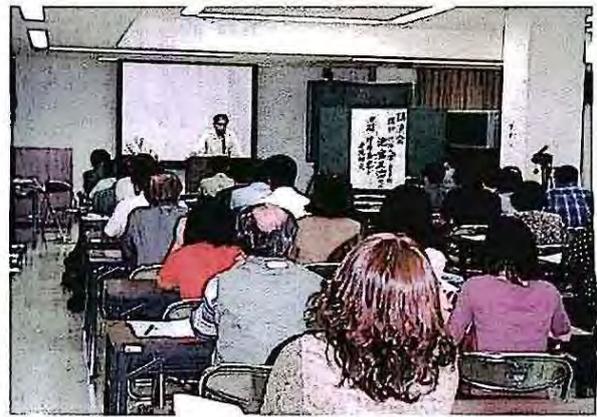
また、阿波根直誠教授からは解説文の他に、昭和初期に書かれた稲垣国三郎氏の「白い煙と黒い煙」が記載されている教科書の写しを提供して頂きました。ここに厚くお礼申し上げます。

尚、同展の展示資料の18点は以下の通りです。

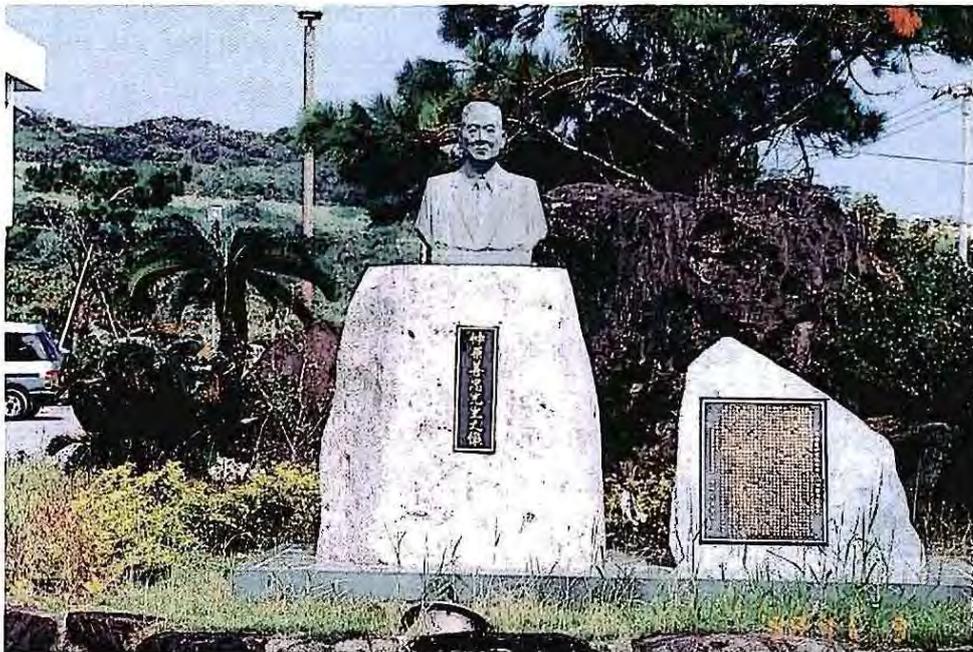
1. 重刻中山伝信録じゅうこくちゅうざんでんしんろく
2. 琉球小話: 詩の国夢の国りゅうきゅうこばなし
3. 琉球漆器考りゅうきゅうしつぎこう
4. 琉球訳賛美歌りゅうきゅうやくさんびか
5. 万次郎漂流記まんじろうひょうりゅうき
6. 君南風由来并位階且公事きみはえゆらいならびにいかいかつくじ
7. 久米仲里旧記くめなかざときゅうき
8. 久米具志川間切旧記くめぐしかわまざりきゅうき
9. 琉球年代記りゅうきゅうねんだいき
10. 本琉球内仲里間切人数改帳ほんりゅうきゅうないなかざとまざりにんずうあらためちょう
11. 琉球重要樹木誌りゅうきゅうじゅうようじゅもくし
12. 琉球談りゅうきゅうばんし
13. 旧藩中租税徴収二関スル事項きゅうはんちゅうそぜいちょうしゅうにかんするじこう
14. 算用棧: 古琉球算法書さんようはらいこりゅうきゅうさんぼうしよ
15. おもろ新釈おもろしんしゃく
16. おもろのふし名索引
17. おもろさうし
18. 奉使琉球始末 草稿之一部ほうしりゅうきゅうしまつそうこうのいちぶ



仲原善忠文庫展風景



講演会風景



仲原善忠先生之像（仲里村教育委員会佐久田勇氏提供）

本学教官著作寄贈図書案内

1998年8月～1998年10月

金城 正篤（法文学部）

沖縄から中国を見る：歴史論集／金城正篤著
那覇：沖縄タイムス社, 1998.10 K200.4-KI

高良 倉吉（法文学部）

アジアのなかの琉球王国、／高良倉吉著 東
京：吉川弘文館, 1998.10 K201-TA

平田 永哲（教育学部）

転換期の障害児教育：インテグレーションを
越えてインクルージョンへ／平田永哲著 那
覇：国際印刷, 1998.6 K378-HI

崎原 盛造（医学部）

沖縄の気候・風土と長寿に関する研究, 平成
9年度／[西原町]（沖縄県）：[崎原盛造],
1998.3 WT116-SA

戸田 隆義（医学部）

粥状硬化症学序説／東京：アトムス, 1998.1
WG550

注）各資料末尾の記号は請求記号です。

沖縄関係資料新着案内

1998年8月～1998年10月

0類 総 記

1. 謝花昇集／謝花昇〔著〕；伊佐真一編・解説
東京：みすず書房，1998.6 K081.6-JA
2. 使琉球紀；中山紀略／張学礼〔著〕；原田
禹雄訳註 宜野湾：榕樹書林，1998.7
K092.4-CH
3. 使琉球録解題及び研究／夫馬進編 京都：
京都大学文学部東洋史研究室，1998.3
K092.4-FU
4. 琉球王国評定所文書，第14巻／琉球王国評
定所文書編集委員会編 浦添：浦添市教育委
員会 那覇：ひるぎ社（発売），1988-
K093.3-RY

1類 哲 学

1. 発達のダイナミクスと地域性：岩手／東
京／沖縄 '72-'97／上田礼子著 京都：ミネ
ルヴァ書房，1998.3 K143-UE
2. 花ものがたり／牧達雄〔ほか〕著・監修
京都：紫翠会出版，1998.6 K188.6-MA

2類 歴 史

1. 沖縄歴史物語：日本の縮図／伊波普猷著
東京：平凡社，1998.7 K200.4-IH
2. 沖縄から中国を見る：歴史論集／金城正篤
著 那覇：沖縄タイムス社，1998.10
K200.4-KI
3. 白旗伝説／松本健一〔著〕 東京：講談社，
1998.5 K200.4-MA
4. 10TH ARMY OPERATION ICEBERG／
沖縄県文化振興会編 那覇：沖縄県教育委員
会，1997.3 K200.8-OK
5. 港川人と旧石器時代の沖縄／沖縄県文化振
興会公文書館管理部史料編集室編〔沖縄〕：
沖縄県教育委員会，1998.3 K200.8-OK
6. 銃剣とブルドーザー：土地取り上げと島ぐ
るみ闘争／沖縄県文化振興会公文書館管理部
史料編集室編〔沖縄〕：沖縄県教育委員会，
1998.3 K200.8-OK
7. 移民会社取扱移民名簿，自1912年至1918年

- ／沖縄県文化振興会公文書館管理部史料編集
室編〔那覇〕：沖縄県教育委員会，1998.3
K200.8-OK
8. 蔡鐸本中山世譜：現代語訳／蔡鐸〔著〕；
原田禹雄訳註 宜野湾：榕樹書林，1998.7
K201-SA
9. アジアのなかの琉球王国／高良倉吉著 東
京：吉川弘文館，1998.10 K201-TA
10. 近世日本の海外情報／岩下哲典，真栄平房
昭編 東京：岩田書店，1997.5 K201.5-IW
11. 沖縄戦後史 1945-1998：写真記録／沖縄タ
イムス社編；改訂増補版 那覇：沖縄タ
イムス社，1998.9 K201.7-OK
12. 仲里間切旧記・仲里関係オモロ／仲里村史
編集委員会編 仲里村（沖縄県）：仲里村，19
98.3 K237-NA
13. 写真集 くすくべ 町制施行50周年記念：写
真にみる城辺町の今昔／城辺町役場企画振興
課編 城辺町（沖縄県）：城辺町，1997.3
K242-GU
14. 石垣家文書：石垣市史編集委員会編／石
垣：石垣市，1995.3 K251-IS
15. 新聞集成，3／竹富町史編集委員会編 石
垣（沖縄県）：竹富町役場，1994.3-
K253-TA
16. ぱいぬしまじま50：町制施行50周年記念誌
／竹富町制施行50周年記念誌編集委員会，竹
富町史編集室編 石垣（沖縄県）：竹富町，
1998.6 K253-TA
17. 沖縄文化・芸能人名録／沖縄タイムス社編
那覇：沖縄タイムス社，1998.8 K280.3-OK
18. 沖縄ひと紀行／三木健著 那覇：ニライ社
東京：新日本教育図書（発売），1998.9
K280.4-MI
19. 小浜高要：生誕百年記念／小浜潔編 横浜：
小浜潔，1998.5 K289-KO
20. 一農学徒の回顧録／宮里清松著〔那覇〕：
〔宮里清松〕，1998.2 K289-MI
21. 森山長雄／森山泰子編 東京：森山泰子，
1998.3 K289-MO

22. 戦後政治を生きて:西銘順治日記/琉球新報社編 那覇:琉球新報社, 1998.9 K289-NI
 23. 柳田國男事典/野村純一[ほか]編集 東京:勉誠出版, 1998.7 K289.1-YA
 24. 沖縄県都市地図/東京:昭文社, 1998.1 K290.38-OK
 25. ひとり歩きの沖縄・奄美/[東京]:JTB, 1998.7 K290.9-HI
 26. 鹿児島県の地名/平凡社地方資料センター編 東京:平凡社, 1998.7 K291.03-NI

3類 社会科学

1. ナイチャー・イズ・ネイバーズ:日本人は隣人か/仲村渠シンシア著 東京:冒険社, 1998.6 K302-NA
 2. 沖縄もう一つの選択:未来21沖縄を展望して/上原康助著 南風原町(沖縄県):光文堂印刷, 1998.6 K302-UE
 3. 沖縄コンパクト事典/琉球新報社編 那覇:琉球新報社, 1998.9 K303-RY
 4. 小指の痛みは全身の痛み:沖縄祖国復帰物語/櫻井溥著 [東京]:東京沖縄経済研究会, 1998.5 K312-SA
 5. 封印の公安警察:あなたのそばにスパイがいる/島袋修著 那覇:沖縄教育図書 那覇:月刊沖縄社(発売), 1998.8 K317.74-SH
 6. 茶柱が倒れる:こんな沖縄県知事とは知らなんだ:沖縄県政に宿る<大田流行政>の徹底研究/神山吉光編 那覇:閣文社, 1998.9 K318-KA
 7. 南風原町議会史,議会関係資料編 第1~21巻/南風原町議会史編纂委員会 南風原町:南風原町議会, 1998.6 K318.4-HA
 8. 南風原町議会史,予算関係資料編 第1~5巻/南風原町議会史編纂委員会 南風原町:南風原町議会, 1998.6 K318.4-HA
 9. 那覇市議会史,第3巻下 資料編2:議会の活動/那覇市議会事務局議会史編さん室編 那覇:那覇市議会, 1996.3 K318.4-NA
 10. 沖縄海上ヘリ基地:拒否と誘致に揺れる町:ヒューマン・ドキュメント/石川真生写真・文 東京:高文研, 1998.4 K319.8-IS
 11. 嘉手納町と基地/[嘉手納町役場]基地涉外課編 嘉手納町(沖縄県):嘉手納町, 1997.3

- K319.8-KA
 12. 米軍用地強制使用問題:改正特措法と公開審理の記録/沖縄タイムス社編 那覇:沖縄タイムス社, 1998.8 K319.8-OK
 13. 恒久世界平和のために:日本国憲法からの提言/深瀬忠一[ほか]編 東京:勁草書房, 1998.5 K323-FU
 14. 沖縄移住地:ボリビアの大地とともに/具志堅興貞著;照井裕編 那覇:沖縄タイムス社, 1998.6 K334.4-GU
 15. 金秀五十年史/金秀グループ編集 那覇:金秀グループ, 1998.2 K335.4-KA
 16. 赤蜂:設立40周年記念誌/[大浜アカハチ会40周年]記念事業実行委員会・編集委員会編[浦添]:大浜アカハチ会, 1998.6 K361.4-OH
 17. なは・女のあしあと/那覇市総務部女性室 那覇女性史編集委員会編 東京:ドメス出版, 1998.9 K367-NA
 18. 戦後の教育:0からの出発,1/那覇市立教育研究所教育史編纂室編 那覇:那覇市立教育研究所, 1998.3 K370.4-NA
 19. わたしたちの「沖縄問題」:沖縄の高校生が調べた・書いた・考えた/森弘達編著 那覇:ポーターインク, 1998.8 K375.3-MO
 20. 上山中学校創立40周年記念誌/那覇:那覇市立上山中学校, 1994.3 K376.3-UE
 21. 転換期の障害児教育:インテグレーションを越えてインクルージョンへ/平田永哲著 那覇:国際印刷, 1998.6 K378-HI
 22. 蛇(ハブ)の民俗/谷川健一編 東京:三一書房, 1998.5 K384.1-TA
 23. アジアもののけ鳥めぐり:妖怪と暮らす人々を訪ねて/林巧著 東京:同文書院, 1997.5 K388-HA
 24. 姉妹神いろいろ/新城まさえ編 那覇:新城真恵, 1991.8 K388-KA
 25. 建軍の本義:国家と軍隊/福多久著 東京:ストーク 東京:星雲社(発売), 1998.5 K392-FU

4類 自然科学

1. 琉球王国時代の植物標本:ペリーが持ち帰った植物たち/企画展「琉球王国時代の植物標

本展]実行委員会編 [那覇]:企画展「琉球王国時代の植物標本展」展示会実行委員会, 1998.7 K472-RY

6類 産 業

1. 「全県FTZ」感情的反対論:フリー・トレード・ゾーンに異議申す。/真喜志治著 那覇:ボーダーインク, 1998.2 K602.1-MA
2. 海と生きる森:マングローブ林:マングローブを知り、そして守り育てるための本/馬場繁幸編 西原町(沖縄県):国際マングローブ生態系協会, 1998.3 K653.27-BA
3. 新世紀の地域流通/地域流通研究会編 那覇:編集工房東洋企画, 1997.3 K675-CH
4. 琉球の朝貢貿易/邊土名朝有著 東京:校倉書房, 1998.7 K678.21-HE

7類 芸 術

1. 沖縄から芸術を考える/沖縄県立芸術大学大学院芸術文化学研究科編 宜野湾:榕樹書林, 1998.3 K708-GE
2. 合縁奇縁(あいえんきえん)/真喜志康忠脚本;新里堅進劇画 那覇:琉球新報出版部, 1998.1 K726-GE
3. みるくがなしとさ-かがなし:おきなわのむかしばなし/いなみねせいそえ;みるくのかいさいわ;ロバート・ステナード, ロバート・エアーズえいやく [那覇]:バーナード・バン・リア財団, 1997.3 K726.5-MI
4. 奥の肖像:坂井和夫写真集/坂井和夫著 大里村(沖縄県):坂井和夫, 1998.5 K748-SA
5. 拝啓、癒しの島にいます。/テラウチマサト著 東京:成星出版, 1997.10 K748-TE
6. 20周年記念作品集/全日本写真連盟沖縄支部編集 佐敷町(沖縄県):全日本写真連盟沖縄支部, 1977.11 K748-ZE
7. 鳩間島古典民謡小謡集工工四:音高符号付/小濱光次郎編 那覇:小濱光次郎, 1998.8 K767.5-KO
8. スポーツアイランド沖縄:沖縄県のスポーツ行事, 平成10年度版/沖縄県教育委員会,

沖縄県公園・スポーツ振興協会[編] 沖縄市(沖縄県):沖縄県公園・スポーツ振興協会, 1998.6 K780-OK

9. ワクワクマリンスポーツinおきなわ:ビーチ&マリトレジャー,/大田エコ著 中城村(沖縄県):むぎ社, 1998.7 K785-OT
10. 中国、琉球武芸志/大塚忠彦著 東京:ベースボール・マガジン社, 1998.7 K789.2-OT

9類 文 学

1. 可奈子のお人形/宮良瑛子文絵 東京:汐文社, 1998.3 K909-OK
2. いきていたキジムナー/島袋あさこ文;野原マキ絵 東京:汐文社, 1998.3 K909-OK
3. ゆい子のゆうき/宮里きみよ文;米田晴彦絵 東京:汐文社, 1998.3 K909-OK
4. バラのぜんゆうさん:ゆめ追う反戦地主/芝憲子文;大城節子絵 東京:汐文社, 1998.3 K909-OK
5. 弟をかえして:愛からの手紙/宮良作文;宮良瑛子絵 東京:汐文社, 1998.3 K909-OK
6. 黄金雲:The Koganegumo:1996(平成8)年終戦51年本土・沖縄合同歌集/沖縄県歌話会著 那覇:沖縄県歌話会 宜野湾:ロマン書房(発売), 1996.12 K915-OK
7. 黄金富:The Koganetomi:1997(平成9)年終戦52年本土・沖縄合同歌集/沖縄県歌話会著 那覇:沖縄県歌話会 那覇:球陽堂書房(発売), 1997.12 K915-OK
8. 大逆襲!沖縄総力戦/馬場祥弘著 東京:広済堂出版, 1998.4 K930-BA
9. 基地がなくなる日:小説/国際非暴力行動委員会編集 東京:冒険社, 1998.2 K930-KO
10. 記夢志/島尾敏雄著 東京:沖積舎, 1993.6 K930-SH
11. むくどりとしゃっきん鳥/池沢夏樹著 東京:朝日新聞社, 1998.5 K940-IK

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。

図書館事情

◎附属図書館長の交替

金城昭夫館長（理学部教授）の任期満了に伴い、後任に法文学部の石川友紀教授が平成10年11月1日付けで発令され、第21代附属図書館長に就任しました。

[石川友紀図書館長略歴]

学位称号：文学博士（広島大学，1982年）

専門分野：地理学

1966（昭和41）年 広島大学大学院文学研究科修士課程修了

1969（昭和44）年 広島大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学

1969（昭和44）年 琉球大学法文学部講師

1972（昭和47）年 琉球大学法文学部助教授

1984（昭和59）年 琉球大学法文学部教授

1986（昭和61）年 琉球大学評議員

1998（平成10）年 琉球大学附属図書館長、評議員

[会議]

◎平成10年度第220回琉球大学附属図書館運営委員会

日時：平成10年10月19日（月）

午後3時～5時

場所：附属図書館 会議室

[協議事項]

- 1) 開館時間の延長及び館内整理日（休館日）の新設について（継続）
- 2) 国際資料室のサービスの改善について
- 3) 電子図書館機能検討委員会委員の委嘱について

[報告事項]

- 1) 平成10年度第1回電子図書館機能検討委

員会報告（9/22）

2) 附属図書館研究開発室報告

3) 平成10年度公開展示事業について

4) 研究個室の改装等館内の模様替えについて

5) その他

*学術情報センターと共催のNACSIS-IR地域講習会（7/16）

*平成10年度学長プロジェクトについて

◎沖縄県大学図書館協議会企画委員会

日時：平成10年11月19日（木）

16:00～17:00

場所：附属図書館 会議室

◎第37回沖縄研究資料調査収集専門委員会

日時：平成10年12月3日（木）

15:15～15:45

場所：附属図書館 会議室

[協議事項]

- 1) 平成11年度「沖縄関係文献資料保存事業経費」の要求について
- 2) その他

[講演会]

◎平成10年度第2回沖縄県大学図書館協議会主催

日時：平成10年12月3日（木）

場所：附属図書館1階 多目的ホール

演題：「昇華と創造性について」

講師：福地 孝（沖縄女子短期大学学長）



場 所：琉球大学附属図書館
 1階 多目的ホール
 1階 AV視聴室
 (共同学習室)
 *場所を変更することがあります
 上映時間：
 通常期(水) ①15:00~②17:30
 (2回上映)
 休業期(水) 13:30~

【1月の予定】

- 1月6日(水) 誓いの休暇：БАЛЛАДА О СОЛДАТЕ/1959/ソ連映画 87分
- 1月13日(水) 現金(げんなま)に手を出すな：TOPUCHEZ PAS AU GRISBI/1953/フランス・イタリア映画 96分
- 1月20日(水) シベリア物語：СКАЗАНИЕ О ЗЕМЛЕ СИБУРСКОЙ/1948/ソ連映画 100分
- 1月27日(水) 禁じられた遊び：JEUX INTERDITS/1951/フランス映画 82分

【2月の予定】

- 2月3日(水) 或る夜の出来事：IT HAPPENED ONE NIGHT/1934/アメリカ映画 105分
- 2月10日(水) わが谷は緑なりき：HOW GREEN WAS MY VALLEY/1941/アメリカ映画 118分
- 2月17日(水) 黄色いリボン：SHE WORE A YELLOW RIBBON/1949/アメリカ映画 103分
- 2月24日(水) 鉄路の白薔薇：LA ROUE/19___/フランス映画 196分

【3月の予定】

- 3月3日(水) 怒りの葡萄：THE GRAPES OF WRATH/1940/アメリカ映画 129分
- 3月10日(水) イワン雷帝：ИВАН ГРОЗНЫЙ/1933/ソ連映画 209分
- 3月17日(水) レインマン：RAIN MAN/1988/アメリカ映画 135分
- 3月24日(水) 戦火のかなた：PAISA/1946/イタリア映画 127分
- 3月31日(水) 国民の創世：THE BIRTH OF THE NATION/1915/アメリカ映画 158分

※ 映写会に関するお問い合わせ・ご要望は、図書館資料サービス係まで Tel: (895) 8166

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第32巻 第1号 (通巻第121号)
 平成11年1月1日発行
 発行：琉球大学附属図書館 〒903-0214 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
 電話 098(895)8168 Fax.098(895)8169
 発行人：附属図書館事務部長 石田 常亞 編集：“びぶりお” 編集委員会